

バックナンバーのお知らせ

『史林』のバックナンバー在庫は次の通りです。お申込は必ず前金にて、郵送の場合送料(各冊四〇円)を添えて下さい。

- 三三巻一号
- 三四巻一・二号・四号
- 三八巻二号・四号
- 三九巻二号・三号・六号 四〇巻六号
- 四一巻四号 四二巻五号・六号
- 四三巻二号・四号・六号
- 四四巻一号・六号 四五巻二号
- 四六巻一号・四号・五号
- 四七巻一号・六号 四八巻三号・六号
- 四九巻三号・六号
- 五〇巻一号・四号・六号
- 五一巻一号・二号・四号・六号
- 五二巻一号・六号 五三巻一号・六号
- 五四巻一号・六号 五五巻一号・六号
- 五六巻一号・六号 五七巻一号・六号
- 五八巻一号・六号 五九巻一号・二号
- 頒価は五六巻六号までは五〇〇円、五七巻一号・五八巻六号は六〇〇円、五九巻一号以降は七五〇円です。

なお、より多くの学兄が史学研究会に入会され、本誌を定期購読されるようお勧め

致します。会費は年四、〇八〇円です。

編集後記

どういうわけか、編集後記は時候の挨拶から始めるのが慣例となっているようで、試みに前年度や前々年度第三号の編集後記を繙いてみますと、『中庭の松の梢をわたる風もさわやかな季節となりました』とか、『蒸し暑かった夏も今や過ぎ、ようやく虫の音など窓辺に聞える頃となつてまいりました』と記されています。いずれも初秋に執筆されたものでしょう。ところが、本年度第三号の編集後記を書いているのは五月下旬なのです。『史林』もほぼ定期刊行に近づいたわけで、これも会員皆様方の御協力の賜と、編集部一同深く感謝しております。

さて、例年春は異動の季節でありまして、当編集部に於きましても若干の異動がありました。長らく編集部の中核的存在として活躍してこられました高橋誠一氏と重松伸司氏とが、それぞれ、滋賀大学教育学部と名古屋大学文学部の講師に栄転されました。両氏の後任として、久武哲也氏と堀川徹氏とが編集部に加わり活躍しております。

der wunderschöne Monat des Jahres

むしろ、

五月雨の雲のたえまをながめつゝ、まどより西に月を待つ哉

といったような梅雨を思わせる今日この頃ですが、会員皆様方の御自愛と一層の御活躍を御祈り致します。(S)

史林 (第五九巻第三号)

一九七六年四月二五日印刷
一九七六年五月一日発行
定価七五〇円

発行人 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部

理事長 今津晃

印刷所

京都市下京区七条御所内中町五〇
中村印刷株式会社